



愛隣幼稚園.....

# 園だより

.....20. 3月

## 予測不能な未来に

今年度最後の「園だより」となりました。お届けするのは2月ですが、本当に連日春のような暖かさが続いています。季節の進み方も確実に2週間は早いようです。春1番も例年より15日早く吹き、いつもなら3月中旬、卒業式の頃に咲き始める雪柳も花をつけ始めています。「今日も暖かい1日となるでしょう〜♪」なんて、天気予報のお姉さんは笑顔で伝えていますが、私は「おいおい、誰か少しは“今日も3月なみの心配な暖かさが続きます”とか言ってくれませんか？」とテレビに向かってひとり突っ込みをしています。この地球規模の平均気温の上昇がこの先、一体何をもたらすのか、予測不能な未来です。でも、それでいいわけはなく、地球人みんなで何とかしないと、とんだことになることは間違いないのです。

そして予測不能なことと言えば、新型コロナウィルスもあつという間に対岸の火事ではなく、私たちの問題になりました。先月この園だよりを書いている時には、日本では大した問題にはならないんじゃないかと、私は高を括っていました。ところがひと月の間にこの事態です。連日報道で伝えられる内容を、私なりに冷静に判断しようと考えています。考えていますが、どうして1週間以上も高熱を出し続け、肺炎の診断を受け処方された薬も効かない子どもが、検査さえ受けることができずに自宅療養するということになっているのでしょうか。理解できません。当たり前医療を受けることが出来なくなっている、ということでしょうか。観光業もそれに関連する業種も大きな打撃を受けています。今朝の東証日経平均株価は一時1,000円も下がりました。既に経済にも影響が出ています。千葉市でも休校の措置をとることになった中学校があります。不安だらけ心配だらけですが、本当に心配なことは何でしょう。怖いのは“新型コロナウィルス”そのものではないようです。このウィルスで発症する肺炎等で死に至る可能性は現時点では3~5%で、驚くほど高い致死率ではありません。怖いのは、今後一気に感染が拡大し、医療崩壊が起こってしまうことでしょうか。多くの人が同時に罹患すれば当然、対応できる医療機関はパンクします。本当に緊急の対応を必要とする人が(子が)十分な医療を受けられなくなるという事態も予測されます。もし、日本中が同じ状況になれば国内外問わず人や物の行き来も一時的に制限されるかもしれません。日本の経済や日常生活は、これらの流通で成り立っていますから、その影響は計り知れません。そんなことにはならないと思っていますが、分かりません。人の命を分け隔てなく尊重し、専門の知識を集め、今必要な手立てを勇気をもって実行できる人(力)が求められています。

さらに、もうすでにお忘れになっている方も多いかもしれませんが、2019年の暮れから2020年にかけてもう一つ、あわや第3次世界大戦か！という予測不能の事態が勃発していました。アメリカとイランの間で起こった出来事です。奇跡的に戦争には至らず、しかし、根本的な事態の収束もなく今日に至っています。そして、この舞台となっている中東の海へ日本は自衛隊を送っているのです。アメリカは大統領選挙を控えていますから、しばらくこのことはなかつたかのように取り扱われるかもしれませんが、火種はくすぶったままです。この先、どうなっていくのかわかりませんが、確かなことは、私たちは平和を希求しているということです。

こんな短期間に、こんなに重大で予測不能の事態が起こるなんてことが、そもそも予測不能なことです。20世紀を生きてきて大人になった者たちが、困惑し立ち往生しています。そこそこ未来に起こりそうなことは予想してきたのですが、経験値では測れないことや、解を得られるはずの公式も当てはまらないことが次々に起こっているのです。3月、愛隣幼稚園から未来を創造していく仲間たちを送り出します。彼らが大人になる頃には、どんな世の中になっているのでしょうか。この子どもたちが夢や希望をもって生きる未来であるためには、大人は相当頑張る必要があります。でも、愛隣で育った子どもたちは、困難な問題にも諦めずに向き合うタフな心、どこのどんな人とも仲間になり知恵と力を結集させることができるコミュニケーション力<sup>りょく</sup>やコーディネート力<sup>りょく</sup>、私一人の幸せでなく、みんなの幸せを願う隣人愛、これらが大切であることを知っています。その力がこれから育っていく種蒔きもさせていただきました。ですから、彼らはきっと予測不能な未来の難題に立ち向かっていけるはずで、目には見えない底力をもった子どもたちが、今年も巣立っていきます。